

奥村五百子 （奥村） 愛國婦人會創設者。弘化二年五月二日肥前國松浦郡唐津生れ、明治四十年二月五日歿（八十二一八九七）。幕末尊皇攘夷運動に加はり、文久二年十九歳の折男裝して長州に使したといふ逸話有り。初め大友氏の歸郷、その歿後鯉淵氏の再嫁、一男一女を儲けると故あつて離別。維新後専ら國事に奔走、女流志士を以て任じた。朝鮮の亡命志士金玉均等を庇護し、二十年渡鮮して獨り運動を助勢。また支那を視察、北清事變は日本軍を慰問して歸國後、二十四年愛國婦人會を興し、全國を遊説してその擴張に努めた。『壬午雜誌』に『愛國婦人』創刊。日露戦争にも現地傷病兵慰問、戦死者弔魂の戦後運動に従事、戦後婦人會員四十六萬人の達した。

小野賢一 著 『奥村五百子』 (昭和五年五月二十日先進社)、 『奥村五百子』 (第二版・昭和九年八月十五日愛國婦人會)、 三井邦太郎 著 『奥村五百子言行録』 (昭和十四年一月二十日三省堂)、 吉村茂二郎 著 『秘話奥村五百子傳』 (昭和十六年十一月二十日大東書社)、 神崎清 著 『奥村五百子』 (昭和十九年四月十日國民社) 等がある。

